

まるりん通信



発行 公益財団法人屋久島環境文化財団 電話 0997-42-2911

研修センターオープンデー

屋久島環境文化研修センターでは、6月20日(日)に研修センターオープンデーを開催します。参加費は無料です。皆さんどうぞお気軽におこしくください。お待ちしております。

- 期 日：令和3年6月20日(日)
- 時 間：9:30~12:30
- 場 所：研修センター
- 予 約：不要
- 参 加：小学生以下は保護者同伴
- 駐 車 場：荒川登山バス停付近の駐車場をご利用ください。
- 内 容：○火おこしチャレンジ



- ネイチャーゲーム
 - いろいろな昆虫をみてみよう
 - 期間限定！やくしま水族館
 - 楽しい工作体験
- ※雨天等により内容を変更することがあります。

〈新型コロナウイルス感染拡大防止にむけて〉

- マスクの準備をお願いします。
- 受付時の検温とご氏名等の記入、ソーシャルディスタンスの確保等、お声かけさせていただきます。なお、各ブースの参加者を10人~15人制限させていただきます。
- イベント当日1週間前から発熱・倦怠感・嗅覚異常の症状がある方は参加をお控えください。
- イベント当日2週間前から、島内で新型コロナウイルス感染者が確認された場合、イベントは中止になります。その際は、屋久島環境文化財団ホームページでお知らせします。

屋久島の情報たっぷり「屋久島通信」



- ★77号目次☆
- ①私が屋久島に住む理由
 - ②屋久島の里 平野
 - ③特集 小杉谷閉山50周年
 - ④屋久島の懐古談
 - ⑤インストラクターだより
 - ⑥財団活動報告
 - ⑦寄付団体・企業紹介

当財団では、7月11月3月の年3回財団機関紙「屋久島通信」を発行してます。

全国の屋久島ファンクラブ会員及び関係機関に対して、屋久島の集落の独特な文化や屋久島に住む生き物など、様々な題材を記事にしています。

ご覧するには、屋久島ファンクラブへの加入が必須となりますので、興味がある方はぜひ屋久島ファンクラブへご加入ください！

海辺deデイキャンプ



シュノーケリング入門&海辺の自然観察！
知ってるようで知らない海の中の世界を、ちょっと覗きに行ってみませんか？

- 日 程：令和3年7月4日(日)
- 時 間：10:00~15:00(昼食付)
- 対 象：小学校3年生以上 65歳以下
- 集合場所：栗生 塚崎海岸
- 参 加 費：2,500円
- 問い合わせ先：
研修センター 担当：中村
〒891-4311 屋久島町安房2739-343
TEL：0997-46-2900 FAX：0997-46-7015
E-mail：kensyuu05@yakushima.jp



インストラクターだより

「雨を楽しむ」

インストラクター：小松 純哉

昨年より19日もはやく屋久島に梅雨がやってきました。“雨の島”と言われるくらい雨が多い屋久島。そんな屋久島で雨の日の楽しみ方を知らないと、毎日どんよりした気分になってしまいます。そこで私なりのおススメの楽しみ方を紹介します。

「①変化を見つける。」屋久島にはおもしろい滝がたくさんあります。雨の時期は水量も増え、いつもと違う姿を見ることができるので、自然の変化を楽しんでみてください。

「②個性を発揮する。」屋久杉を使ったクラフト体験や島の土を調合した陶芸体験など、島ならではの体験をすることができます。そこで個性を最大限に発揮し、世界に一つだけの作品を作ってみてはいかがでしょうか。誰かへのプレゼントにもおすすめです。

「③魅力ある空間を探す。」屋久島には至るところにステキな空間のカフェがあります。好きな音楽や雨音を聞きながらこだわりのドリンクをいただく時間ほど落ち着ける時間はありません。皆さんもぜひお気に入りの空間を見つけてみてください。

「④雨に打たれる。」屋久島では時々、大きな雨粒がとんでもない勢いで降ってきます。興味のある方は一度雨に打たれてみてください、とても痛いです。

ざっと私なりの雨の日の楽しみ方を紹介させていただきました。

皆さんなりの雨の日の楽しみ方を見つけると毎日がより楽しくなります。

五感をフルに使って、いろんな屋久島の魅力をみてくださいね。



財団活動報告

○縄文杉マナー指導 (5/2)

繁忙期における縄文杉デッキの混雑緩和等を目的としてマナー指導へ行きました。



当日はコロナ禍にも関わらず、多くの登山客で賑わっており、縄文杉の雄大さに感嘆の声が上がる場面も多くありました。

○受入事業 (5/18)

研修センターでは岳南中学校と中央中学校の研修を行いました。



感染拡大防止対策として宿泊を行わないなど、一部プログラムを変更して実施しました。

当日は天気が心配されながらも岳南中は川の生き物調査、中央中学校は小杉谷トレッキングを無事に実施することができ、学生たちも楽しげな様子でした。

屋久島を思う

事業課長 内田 大信



30年以上前のことですが、祖母の家に泊まり、かねて食べることができないものを好きなだけ食べることが楽しみのひとつでした。

祖父母宅には、曾祖父も一緒に暮らして、食事の時にいろいろと話しかけられるのですが、余りに強い訛りや方言で会話の殆どがよく理解できず、いつも祖父母に現代語訳をしてもらっていたことを思い出します。

現代では、マスコミの影響もあってか、標準語が広まったこともあり、方言を使って会話することは限りなく少なくなりました。

私自身も、今となっては、耳にする会話が屋久島の方言なのか、鹿児島弁なのか判別がついていないことも多く、ただ単語を知っている程度でしかないことは、屋久島生まれ屋久島育ちの矜持が揺らぐことのようにも思えます。

他方、若者たちの使用する言葉も、意味のない単語（マヂ equal）を並べるなどして、不惑を越えたおじさんには到底理解しがたい世界観があり、まさに世代間での方言といった感じでしょうか。

こうして、土地の言葉が失われる一方で、新たな造語が生まれてくるのは寂しい気もしますが、受け入れなければならないことなのでしょう。^{*}ぴえん。

^{*}ぴえん：泣いているさまを表す擬態語。2018年頃から女子高生が使用

【6月・7月の休館日】

○村センター 6/7 (月)・6/14 (月)・6/21 (月)・6/28 (月)・7/5 (月)・7/12 (月)・7/19 (月)

○研修センター 6/7 (月)・6/14 (月)・6/21 (月)・6/28 (月)・7/5 (月)・7/12 (月)・7/19 (月)